

バランスの良い食事で
免疫力 UP! 毎日果
物 200g食べましょう。

第24回全国果樹技術・経営コンクール表彰式の開催

p1

果樹を巡る動き

・全国果樹産地の担い
手・労働力に関するシ
ンポジウムについて

p4

特集

・ドバイにおける日本
産青果物のプロモー
ションについて

p6

業務日誌、人事異動

p8



第24回全国果樹技術・経営コンクール表彰式の開催

本コンクールは、果樹の生産技術や経営方式において他の模範となる先進的な農業者、生産集団等を表彰し、その成果を広く普及することにより、我が国果樹農業の発展に資することを目的として、平成11年度から毎年度開催しています。

主催団体は、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、日本園芸農業協同組合連合会、全国果樹研究連合会、公益財団法人中央果実協会の5団体であり、農林水産省及び日本農業新聞からの後援をいただいています。

令和4年度は、第24回目となり、全国の都道府県段階の選考を経た14件の応募の中から、農林水産大臣賞、農林水産省農産局長賞、各主催団体賞が決定されました。

この2年間は新型コロナウイルスの感染の影響により表彰式を中止せざるを得ませんでしたが、今年度は、令和5年2月16日に農林水産省平形農産局長のご臨席のもと、法曹会館(東京都千代田区霞が関)にて表彰式が盛大に開催されました。

表彰式では、賞状等の授与の後、受賞者を代表して山梨県の岩澤さんご夫妻から「受賞者のことば」が述べられました。

農林水産大臣賞受賞者の概要は次頁のとおりです。各賞受賞者の概要につきましては、当協会のホームページに掲載することとしております。第23回までの各賞受賞者の概要と合わせてご覧いただければ幸いです。



第24回全国果樹技術・経営コンクール 受賞者一覧

農林水産大臣賞

氏名・集団名	住 所	果 実
ながおひろと ながおいくこ 長尾博人・長尾郁子	ひらかわし 青森県平川市	リンゴ
いさわよしゆき いさわみつこ 岩澤良幸・岩澤美津子	ふえふきし 山梨県笛吹市	ブドウ・モモ・スモモ
あべまさひろ 安部正博	うさし 大分県宇佐市	ブドウ
ながの農業協同組合 生産部会連絡協議会 しがこうげん 志賀高原もも部会	ながのし 長野県長野市	モモ

農林水産省農産局長賞

氏名・集団名	住 所	果 実
もりさきたかし 森 碯 隆	ぜんつうじし 香川県善通寺市	キウイフルーツ
のだしんご のだまなみ 野田真吾・野田真奈美	おおむらし 長崎県大村市	温州ミカン
こくぼあつし 小窪 篤	みやざきし 宮崎県宮崎市	施設キンカン
あらしろかずなり あらしろさちえ 新城一成・新城幸枝	ひがしそん 沖縄県東 村	パインアップル
みらい だて JAふくしま未来 伊達地区あんぽ柿生産部会	だてし 福島県伊達市	カキ
やまなし てきせん JAフルーツ山梨 笛川支所 ぶどう部	やまなしし 山梨県山梨市	ブドウ

関係団体賞

【全国農業協同組合中央会会長賞】

氏名・集団名	住 所	果 実
山形農業協同組合 なんぶえいのう 南部営農センター果樹部会 西洋梨部会	かみのやまし 山形県上市市	西洋ナシ

【全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞】

氏名・集団名	住 所	果 実
かわかみふみお かわかみようこ 川上文夫・川上洋子	ふくしまし 福島県福島市	ナシ

【日本園芸農業協同組合連合会会長賞】

氏名・集団名	住 所	果 実
やまなかこうじ 山中孝次	ゆらちよう 和歌山県由良町	温州ミカン・晩柑類

【全国果樹研究連合会会長賞】

氏名・集団名	住 所	果 実
JAとまこまい広域 厚真町ハスカップ部会	あつまちよう 北海道厚真町	ハスカップ

農林水産大臣賞受賞者概要

りんごの高密度植わい化栽培による省力化と高収量化で効率経営 — 長尾 博人さん・長尾 郁子さん(青森県 平川市)



りんご

りんご栽培を平場へ移行、経営面積3.8haの大半をわい化栽培及び高密度植わい化栽培として効率化、単収増加、優れた剪定技術で食味向上

- 傾斜地が多いりんご園地を平場に移行し、わい化栽培及び高密度植わい化栽培の拡大により作業の効率化と単収の増加を実現、積極的に省力化を推進。
- 剪定技術による樹勢コントロールに加えて、花芽管理を徹底し余分な花芽形成をさせないことで樹体にかかる負担を軽減させ食味を向上。
- 病虫害予察の徹底や、腐らん病の早期発見と除去、ハダニ等対策とした粗皮削りといった農薬使用の低減に取り組む、海外人気の高い黄色品種の早期導入など、輸出にも向けたモデル的な栽培を実現。
- 青森県りんご協会の理事など様々な役職を歴任し、地域のリーダーとして担い手育成やわい化栽培の技術指導に尽力するほか、共同防除組織の合併や共同精算ソフトの導入による効率化を主導してオペレーター不足の解消に貢献するなど、地域のりんご生産に大きく貢献。

露地栽培のもも、すももとハウスぶどうを組み合わせ高収益経営 — 岩澤 良幸さん・岩澤 美津子さん(山梨県 笛吹市)



ぶどう、もも、すもも

ぶどう50a(ハウス30a、露地20a)、もも80a、すもも80aの複合栽培で高収益を実現

- 省力的な露地栽培のもも、すももと高収益のハウスぶどうを組み合わせ、安定した品質と収量を維持しつつ、切れ目ないリレー出荷により安定経営を実現。
- ハウスぶどう栽培にいち早く取り組み、平成26年の大雪の被害を契機に高収益性品種の「シャインマスカット」を導入し、安定経営の柱に育成。
- ハウス天窓の自動制御、スマートフォンで確認できる環境モニタリング装置、もも・すももの低樹高栽培などの技術導入と、分散する園地の集約により高品質栽培と省力生産を実現。
- JAの役職を歴任、山梨県の指導農業士会の副会長としても活動し、地域リーダーとして、高収益農業の実現と青年農業者等担い手の育成に積極的に取り組む。

ぶどうリレー栽培等により効率経営を実現する地域リーダー — 安部 正博さん(大分県 宇佐市)



ぶどう

270aの園地で早期加温から露地栽培まで各種品種を栽培するぶどう専業農家、効率経営とマーケットニーズに対応した販売を展開

- 有望品種を先駆けて導入。早期加温、普通加温、無加温、雨よけ、露地と作期をずらすリレー栽培により労働時間の分散を図り、面積を拡大、少人数で効率的に管理。
- パート雇用を繁忙期の異なる近隣農家と共同で雇用管理、雇用者の所得安定につながるよう工夫。防除や運搬、管理作業の機械化や、自動開閉装置、二重被覆のハウス整備等により高収益を実現。
- 早期加温による7月から旧盆前の高単価時期の出荷や、黒系、赤系、緑系の品種3色セット販売、消費者の要望に応じた少量パック販売など、販売も工夫。
- 農協の解散を受けて有志で「大分果樹園芸組合」を立ち上げ、共同出荷組合を維持し、現在まで18年にわたり組合長を務めるなど、地域のリーダー的存在。

出荷量の3割を輸出するもも輸出のリーダー的産地 — ながの農業協同組合 生産部会連絡協議会 志賀高原もも部会(長野県長野市)



もも

地域を挙げた良品栽培、輸出専用出荷ラインによる安定輸出の推進により、生産者手取り上昇

- 生産者に理解しやすい大藤流の仕立てや晩生日川の品種振興により、早期多収及び高品質生産を可能にした。
- 部会組織を挙げた先進地視察や勉強会の開催等により、地域全体で良品栽培を推進し、気象条件等から必ずしも最適地とはいえない地域ではあるが、部会の不断の努力と団結力により稀有な産地に発展。
- 他の産地に先駆けて平成20年から台湾への輸出を開始し、技術指導体制や出荷荷造り体制の確立により、出荷量の3割を輸出するもも輸出のリーダー的な産地に成長。
- 2選果所の選果システムをネット回線で繋げた統一共計や輸出専用出荷ラインの設置により、安定的な輸出を実現し、販売単価の底上げや選果、出荷負担の削減が生産者の手取り上昇に寄与。

果樹を巡る動き

全国果樹産地の担い手・労働力に関するシンポジウムについて

農林水産省農産局果樹・茶グループ果樹振興班 園芸振興係長 新津 泰亮

全国の果樹産地で担い手や労働力の不足等が課題となっている中、先進的な取り組みを行っている産地の取組事例等を紹介し、産地間の交流を促すことで、全国果樹産地の担い手、労働力の確保・育成の機運を醸成することを目的に、令和5年2月3日(金)に「全国果樹産地の担い手・労働力に関するシンポジウム」を農林水産省の講堂(オンライン併催)において開催しました。

開会にあたり勝俣副大臣からご挨拶をいただきました(写真1)。果樹農業に特化した担い手や労働力に関するシンポジウムの開催は、農林水産省でも初めての試みでしたが、当日は、会場参加者約100名、オンライン視聴では約600回線の接続があるなど、多数の参加をいただきました。以下、シンポジウムの概要を報告します。

1. 農林水産省等からの発表

はじめに、農林水産省の安岡生産振興審議官から、「果樹産地の次代の担い手確保」をテーマに発表しました。果樹農業の新規参入の特徴的なハードルとして、未収益期間の収入確保、園地の確保、高度な技術習得があり、全国の産地協議会に行ったアンケートでは、7割の産地が担い手確保の見込みがないとの結果です。一方、アンケートをさらに分析すると、就農前の研修等のサポートが担い手確保に効果があることが分かりました(図1)。この結果を踏まえ、参入希望者が充実した実地研修を受けられ、必要に応じてリース・分譲も可能となる研修園地を果樹型トレーニングファームとして設置・運用していくことを提案しました。(今回、この果樹型トレーニングファームの設置・運用に活用できる農林水産省の施策等を紹介したガイドブックを配布しています。)

続いて、農林水産省担当官から、植物検疫に係る輸出入解禁の流れや果樹の解禁協議の進捗状況を報告するとともに、輸出のさらなる拡大に向け、果実の輸出をめぐる情勢について説明しました。また、(一社)日本青果物輸出促進協議会の菱沼会長が登壇し、果物の輸出促進に向けた取組み強化の方向性や協議会が行っている輸出に向けた取組みのサポートを紹介し、各産地の輸出の取組み促進を呼びかけました。

2. 取組事例発表

本パートでは、担い手や労働力確保の取組みを先進的に行っている果樹産地のJAの担当者から、取組事例を紹介していただきました(写真2)。

●JAにしうわ(愛媛県) 宇都宮営農振興部長

県外短期雇用者の受入れのため、廃校などを改修して宿泊施設を確保し、行政からの宿泊費等の支援や繁忙期

が異なる他産地と連携した募集活動などの取組みにより、令和3年度には全国から579名の収穫アルバイトを受け入れている。担い手の確保・育成については、地域ごとにチームで研修生を受け入れ、地域ぐるみで研修生を育てる体制を構築しており、平成27年の受入れ開始から20名がすでに就農している。

●JA上伊那(長野県)園芸課 柴係長

独自のインターン研修制度により生産者の下で原則1年(最長3年)研修し、研修手当(210万円/年)を市町村とJAで支援するなどしており、県の実施する研修制度の利用者を含めると平成27年から24名がすでに就農している。研



写真1 勝俣副大臣ご挨拶

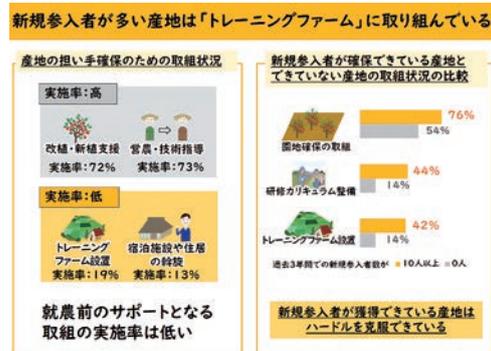


図1 アンケート結果分析



写真2 取組事例発表

修制度による新規参入者から産地のリーダーが育っており、新たな研修生の受入先になるとともに、若手を中心としたネットワークが広がり、新たな技術を積極的に取り入れる機運が高まるなど産地に好循環をもたらしている。

●JA広島果実連(広島県) 福本果樹農業振興対策センター長

平成24年に県域を対象としたカンキツの研修園地を設置するとともに、県内の関係機関(県、市町、JA、JA広島果実連)の役割分担を明確にし、就農まで一貫した支援体制の構築により、当該園地でこれまでに10名が就農している。さらに、まとまった園地の確保や改植、新植による未収益期間の発生など新規就農時の経営リスクを回避するため、成園化した園地を渡せるよう、平成30年からJA広島果実連が自ら農業経営を開始。これまでに、三原市佐木島に地域の協力を得て3haのレモン専用園地を集積・整備しており、今後は10haまで拡大し、新規就農者や既存の担い手と運用することで産地を活性化していく。

3. パネルディスカッション

本パートでは、農業法人、企業、相談機関、地域グループなど様々な立場で活躍されている5名の方(下表)に御登壇いただき、新規参入の受入れや労働力確保等で工夫していることなどについて意見のやりとりが行われました(写真3)。概要を以下に紹介します。

パネリスト:

- ・YUIME株式会社 江城取締役
- ・観音山フルーツガーデン 児玉代表
- ・全国新規就農相談センター 勝呂相談員
- ・株式会社WithFarmer 平戸代表
- ・OSINの会 渡辺会長

モデレーター:

- ・農水省果樹・茶グループ 仙波グループ長

・新規参入の募集にあたっては経営収支や栽培のモデルケースなど具体的にイメージできるデータを発信していくことが重要。(勝呂氏、渡辺氏)

・労働力確保にあたって、果樹は他の園芸作物と比べると繁忙期が短いため域外からの労働力確保が難しい。これを解決するには、個々ではなく産地全体で受入体制を作ることが重要。(江城氏)

・新規就農者の募集について、就農準備金など全国で支援を受けられるので、無名の町で呼び込むには良い条件を付けなければと考へ、町役場の支援も受けて住宅整備や機械バンクなどの仕組みを充実させてきた。(渡辺氏)

・研修生には宿舎を用意したり、地域の研修先の農業者を紹介したりしている。また、この3年間で4ha園地を借り受けたが、経費はほとんどかからない。このように果樹農業は受入体制を整えることで、参入するには今がチャンスだと考えている。(児玉氏)

4. シンポジウムのアンケート結果

シンポジウム開催後に参加者に行ったアンケートでは、満足、やや満足と回答した参加者が9割を占めました。参加者からは、「他県の優良事例が大変参考になった。何かできることを見つけていきたい」、「これまでの行政やJAが主体とは異なり、地域や企業といった新たな視点での担い手確保の話が聴くことができ、視野が広がった」、「色々な分野の方がおり、各々の視点からのお話は、面白かった」といった評価のコメントがありました。一方、「内容は良かったが、時間が短くもっと深掘りして欲しかった」、「質問時間が短かった」といった運営面の課題をご指摘いただきました。

5. さいごに

本シンポジウムでは各登壇者から、日々の活動や御経験に裏打ちされた示唆に富む貴重な発言を数多くいただきました。この貴重な情報をより多くの産地の関係者の方々に共有するため、農林水産省の果樹のホームページに本シンポジウムの動画や資料を掲載しています。
(<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/index.html>)是非、ご覧いただき、担い手の確保・育成のための取組みの参考としていただければ幸いです。

また、農林水産省果樹・茶グループでは、今後、全国各地の果樹産地の皆様の取組みや抱えている課題を現地訪問やWeb会議などにより積極的にお聞きし、課題解決に向けて果樹産地の皆様と共に取組みを進めていきたいと考えています。お困りのことなどがございましたら、御相談ください。

(果樹・茶グループ連絡先:03-3502-5957)



写真3 パネルディスカッション



特集

ドバイにおける日本産青果物のプロモーションについて

一般社団法人日本青果物輸出促進協議会 専務理事兼事務局長 荻野 英明

当協議会では、令和4年度品目団体輸出支援事業を活用して、2022年12月12日(月)から17日(土)までの間、アラブ首長国連邦(UAE)の都市ドバイにおいて日本産青果物のプロモーションを実施しました。

本事業は、(株)エービーシースタイル(ABC Style)に全体の運営を委託し、当協議会の6会員がプロモーションに参画し、主としてPRと商談を実施しました。

1. UAEとドバイについて

UAEは7つの首長国による連邦制となっており、大統領はアブダビ首長が兼任、副大統領兼首相はドバイ首長が兼任しています。

UAEの人口は928万人(2020年)で自国民は100万人程度とされ、面積は8万3600平方km(北海道程度)です。ドバイは約3,900平方kmで埼玉県程度の広さですが、UAEのGDPの30%を占め、ビジネス・ハブ(中心地)としての地位があります(図1)。

ドバイはジョベル・アリ港(中東最大の港湾)及びドバイ国際空港(7年連続世界最大の国際旅客数)を抱え交通の要衝となっています。また、世界最大規模のショッピングモール、世界一の高層建築物等があり、世界一の観光消費都市であり、産油国でもあることから、富裕層比率も高くなっています。

このような背景があることから、2021年にはドバイ博覧会が開催されました。

また、2022年は、UAEと日本の国交樹立50周年に当たり様々な記念行事が行われました。さらに、サッカーのワ

ールドカップがカタールにおいて昨年12月に開催されました。

これらのイベントにはUAEだけではなく世界各国から様々な人がドバイに来訪することが期待され、日本産青果物のPRの絶好の機会であるため12月にプロモーションを実施しました。

2. プロモーションの実施内容

(1) 日本食レストランにおけるPR 12月13日(火)

ドバイ市内のホテルにある日本食レストランにおいて日本産青果物の試食と商談を実施しました。

参加は、県の農産物輸出促進協議会や農業協同組合、農業生産法人な合計6会員で、りんご、かんきつ類、ぶどう、メロンなどの試食などを行いました(表1)。

表1 日本食レストランでのPRの参加状況

会員団体	対象青果物
静岡県温室農業協同組合 クラウンメロン支所	マスクメロン
ブランドおおいた輸出促進協議会 農産部会	シャインマスカット、不知火デコポン、紅はるか、新高(日田)梨
株式会社 SAMURAI SUMMIT	安納芋、いちご(かおり野)
株式会社 秀果園	りんご(サンフジ、シナノスイート、シナノゴールド) ぶどう(シャインマスカット、ウインク、バイオレットキング、マスカットノワール、富士の輝き) 巨峰の完熟100%ジュース、巨峰の早摘み100%ジュース 8品種のセミドライぶどう、市田柿
JA広島果実連	レモン
株式会社 ヒロファーム(北海道食品流通株式会社)	いちご(すずあかね)、国産ドライフルーツ(いちご)、レトルトホワイトショコラ

当日は、在UAE日本国大使館から磯俣秋男大使が出席され、ご挨拶をいただくとともに、バイヤー、レストラン関係者、マスコミ関係者約100人が来訪し、その一部の方々とは協議会参加者と商談を行いました(写真1)。

商談参加者からは、次のような感想が得られました。

- ① 実際に現地へ赴いたことにより、WEB商談会だけでは得られない現地の生の声を聴くことができ有意義であった。
- ② この国や地域での日本産青果物の販路拡大が見込めると期待する意見が多く寄せられた。

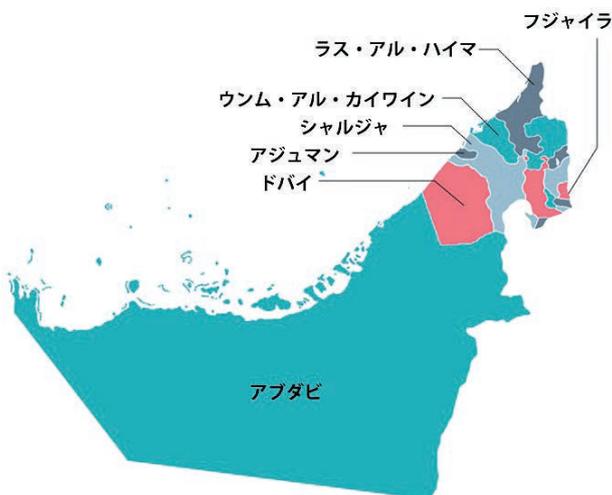


図1 UAE及びドバイの地図

- ③ UAEへの輸送ルートと現地価格の観点から現地の実情に通じたインポーターとのつながりの構築が第一と考えられる。
- ④ 量販店に卸している他国産の青果物との価格差が非常に大きく、現地での需要量の急拡大が難しいこと、また、青果物の特性を考慮して超富裕層向け、高級レストラン向けの導入に期待する声を得られた。
- ⑤ 参加者の商談への前向きな姿勢、現地バイヤーの日本産青果物購入への興味の高さが印象的であった。

(2) 総領事公邸におけるPR 12月15日(木)

日本とUAEの国交樹立50周年の記念イベントとして、特別に在ドバイ総領事公邸において日本産青果物のPRイベントを開催しました(写真2)。

同PRイベントでは、関口昇総領事からご挨拶をいただくとともに、日本産青果物の展示と試食の提供などを行いました(写真3及び4)。

政府・財界の要人やバイヤー約70人が来訪しました。

(3) PRイベントの現地での反響

マスコミ関係者も招待したことから、PRイベントの様子は有名な中東通信社、UAEの新聞社、WEBニュースなど、11社のマスコミからアラビア語や英語により報道されました。



写真1 日本食レストランにおけるPRでの商談風景



写真2 総領事公邸でのPRイベントの様子



写真4 日本産青果物の試食の様子



写真3 総領事公邸での日本産青果物の展示と試食

(公財)中央果実協会

編集・発行所
公益財団法人 中央果実協会
〒100-0011
東京都千代田区内幸町 1-2-1
日土地内幸町ビル 2F

電話：03-6910-2922
FAX：03-6910-2923

編集・発行人
今井 良伸
印刷・製本
(有)曙光印刷



Web サイト
URL:
www.japanfruit.jp

お知らせ

毎日くだもの200グラム運動
メールマガジン「くだもの&健康
ニュース」を発刊しています。

多くの方の読者登録をお待ち
しております。

メルマガの読者登録方法は
当協会下記ホームページをご
覧下さい。

<https://www.japanfruit.jp>

3. 今後について

本PRイベントでは、来訪した消費者やバイヤーにアンケートを行いました。

実際に試食した結果として、消費者、バイヤー共に日本産青果物の評価は高く、生鮮品ではりんご、みかん、ぶどう、いちご、メロンへの反応が良好でした。

他方、他国産との価格差ほどの味の優位性があるわけではないとの結果でした。

プレミアム層向けの需要に特化する必要性や、高価格を正当化するためのブランディング、安定調達とオンラインも含めた販路拡大などの課題が指摘されました。

また、参加者による個々の商談結果では、輸出ロットが小さく輸送費が高価となるので、あらかじめ、レストラン等を活用した日本産青果物フェアを開催する企画を前提として商談をまとめることによる輸出ロットの大型化を図ること、また、加工品等と組み合わせることにより、生鮮の輸出時期にとられない輸出時期の拡大が必要と考えられました。



写真5 UAE・ドバイの日本産青果物のPRイベントの参加者

業務日誌、人事異動

(業務日誌)

- 5. 2. 2 令和4年度道県果実基金協会業務運営協議会 (於 航空会館及びリモート開催)
- 5. 2. 16 第24回全国果樹技術・経営コンクール表彰式 (於 法曹会館)
- 5. 2. 21 令和4年果樹経営支援対策事業等実施評価委員会 (第2回) (於 航空会館)
- 5. 3. 7 令和4年度第3回理事会 (於 航空会館及びリモート開催)

(人事異動)

農林水産省農産局果樹・茶グループ

新	日付	名前	旧
農産局園芸作物課果樹・茶グループ 果樹振興班経営支援係	5. 2. 1	中田 昇	中四国農政局生産部園芸特産課 新産地育成係